

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人 札幌市芸術文化財団	
施 設 名	札幌芸術の森	
助成対象活動名	人材育成事業	
内定額(総額)	3,799	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	3,799	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	札幌ジュニア ジャズスクール	平成30年4月7日～ 平成31年3月9日	参加：小学生クラス26名、 中学生クラス21名 講師：杉本武志、中嶋和哉	目標値	50
		札幌芸術の森 アートホール		実績値	47
2	札幌芸術の森 バレエセミナー	平成30年8月2日～ 8月10日	講師：ジョゼ・マルティネズ、 アニエス・ルテステュ、デル フィーヌ・ムッサン他	目標値	70
		札幌芸術の森 アートホール		実績値	171
3	北海道 グループキャンプ	平成31年3月23日 ～31日	講師：タイガー大越、マルコ・ピ グナタロ、マーク・ウォーカー、 ジョージ・ラッセル	目標値	50
		札幌芸術の森 アートホール		実績値	41
4	大学との連携	平成30年7月20日 ～12月22日	北海道教育大学岩見沢校 (インターンシップ受入6名/ 授業参加36名)	目標値	2
		札幌芸術の森 野外ステージ他		実績値	42
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	172
				実績値	301

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

札幌芸術の森は、札幌市の芸術文化の創造と振興を図る拠点のひとつとして昭和61年のオープン以来、音楽・舞台芸術、美術、工芸の各分野において様々な主催事業を推進している。この中で、開園以来、継続して取り組んでいるのが「芸術文化を通じた人材育成」事業である。芸術の森には大中小の練習室を有するアートホールがあり、複数のプログラムを同時に実施するセミナーや練習活動を行なう施設と環境が整えられている。平成30年度～34年度の札幌芸術の森指定管理計画書にも、「芸術を担う人材育成と芸術を通じた人づくり」は基本方針のひとつとなっている。今回申請を行った「バレエセミナー」は開園直後に開始し、昨年、30周年を迎えた。

また、「ジャズスクール」は平成12年度から、「グループキャンプ」は平成17年度から継続している事業であり、いずれも芸術の森の音楽・舞台芸術部門を代表的する事業である。

平成18年に創造都市宣言を行なった札幌市は、文化芸術による街づくりを推進しており、平成29年度の札幌市の文化芸術意識調査報告書でも、文化芸術を活かすべき分野として第1位に「教育」があげられるなど、市民からも高いニーズが寄せられている。公的施設である札幌芸術の森の重要な役割として、人材育成事業の継続は必要であると考えている。

事業の組み立てについては、これまでの実績から、課題の改善を図りながら計画し、実施した。全事業を通し、ほぼ予定通りに進めることができた。

ジャズスクールは、札幌のみならず道内各地を巻き込み、ジャズを通して各地域に活気を与えている。卒業生は1,000人を超え、プロミュージシャンとして活躍する人材や各界で活躍する人材を多数輩出している。バレエセミナーと北海道グループキャンプは、北海道はもとより全国から受講生を集め、若手芸術家の育成セミナーとして、高い注目を集めている。地方都市である札幌で、継続して特性ある育成事業に取り組むことにより、地域の活性化と魅力増進に大きく貢献している。

今後も助成金をはじめ、協賛金や様々な資金調達方法を工夫しながら、芸術の森の特性を生かした事業として継続していく意義のある事業と考えている。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

指標となる参加人数では、ジャズスクールはほぼ目標数、グループキャンプは目標に対し8割の受講数、一方バレエセミナーでは目標の2倍以上の参加者数を獲得した。バレエセミナーでは前年度の反省を踏まえ、全国的なコンクールを開催日を外して日程調整を行い、通期のみ受付であったものを前期と後期に分け、半期ずつの受講を可能とし、さらに学ぶ機会が限られている「パ・ド・ドウ」クラスや海外のカンパニーでの研修制度を新たに設けるなどの工夫を行なったことなどが受講人数増に繋がったものである。

数値で測れない目標のひとつである「豊かな情操、想像力、多様性を認める感性を育む」ことに関しては、内容の充実と多様で豊富なプログラムを数多く開催することにより、目標達成に努めた。

ジャズスクールでは、年間を通じ、定期練習66回、演奏会等55回、連携する他地域との交流事業6回など多くの活動を実施した。アドリブに音楽的特徴のあるジャズの演奏、合宿、福祉施設への訪問、他地域や海外のジャズスクール生との交流を通して、子どもたちの創造性や協調性、また多様性を感じる環境の中で、豊かな感性を育むことができた。

高い水準の指導を受けられるバレエセミナーとグループキャンプについては、世界トップレベルの講師を招聘し、多彩なカリキュラムについて講師と相談を重ね、札幌独自の充実した内容とし、受講生をバックアップする通訳やスタッフを配し、安心して学ぶことができる環境を整え、受講者からも高い評価を得た。さらに、バレエセミナーではスペイン国立ダンスカンパニーでの研修に3名を派遣、グループキャンプでは、アメリカ・バークリー音楽大学での夏季5週間のサマープログラムに受講無料で参加できる権利を3名に授与するなど、優秀な受講生には、世界へのステップアップの機会を用意した。

全体を通じ、目標を達成するため内容の充実を図り、有効な活動を実施することができた。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

期間については、通年事業であるジャズスクール、期間限定のセミナーであるバレエセミナー、グループキャンプともに、必要なカリキュラムを盛り込むために必要な日数を確保したものである。バレエセミナーについては全8日間を通期受講、前期・後期各半期ずつの受講も可能とし、受講者数増・収入確保に努め、効果を上げた。また、北海道グループキャンプについては、事業実施にあたり十分な自己財源がなく、助成金の有無により事業実施を決定せざるを得なかったことから助成内定後からの準備期間を考慮し、開催時期を当初（要望書提出時）の夏休み期間から、3月下旬の春休み期間へと変更した。

予算の計上については、計画に則るとともに、執行にあたっては適正な遂行と経費節減に努めた。グループキャンプの会期が3月末日までであり、講師の復路が4月に掛かったことから翌年度経費となり、旅費や宿泊費の一部が助成対象外経費となったほか、決算では受講者が目標に達しなかったことによる収入の減もあり、自己負担額の増となった。開催時期については次回以降の課題として検討する。バレエセミナーでは受講者増により目標の収入を達成したほか、支出も早期の航空券手配に務めるなどして抑え、決算では当初予算より良化した。

人材育成事業全体では、当初予算に対し、収入が3,839千円余の減となったが、経費削減にも努め支出を3,128千円余抑えた。自己負担額は715千円余増の結果となったが、全事業を通して、助成金を元に、安定的な運営を行うことができた。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

札幌市の郊外に位置し、豊かな自然環境に囲まれた芸術の森は、美術・工芸・音楽・舞台芸術の施設群を有する複合文化施設として昭和61年にオープンし、以来、多くの芸術家たちの創作拠点としての機能を有す一方で、市民に対しては、アートと触れ合う喜びや芸術活動に参加する機会を提供し、さらに次世代の文化芸術の担い手（実演家）の育成を、重要なミッションとして位置づけ、事業の展開を図ってきた。こうした地域における文化拠点としての活動に対し、平成24年に地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞している。

約40haに及ぶ広大な施設環境は、当市における文化芸術のランドマークとして多くの市民に親しまれ、世界三大教育音楽祭の一つと称される「パシフィック・ミュージック・フェスティバル」をはじめ、「サッポロ・シティ・ジャズ」、「芸術の森バレエセミナー」などは、当市を代表する文化芸術事業である。

当市では、市民を対象に文化芸術に関する意識調査を毎年行っており、そのなかで、当財団が主催する「サッポロ・シティ・ジャズ」は、最も認知されている文化芸術イベントである。同事業には、プロ・アマ合わせ年間で500組2,000人以上のミュージシャンが参加し、来場者・参加者数も年間で20万人以上を動員する国内最大級のジャズイベントである。観光資源の創出に貢献するとともに、イベントタイアップを通じた企業のブランディングへの貢献、市民参加推進による市民文化の一層の振興、音楽文化を次世代に循環させるための人材育成など、音楽文化の醸成を通して都市の発展と街づくりへの寄与を目的としている。

ジャズスクールとグループキャンプは、このサッポロ・シティ・ジャズにおける人材育成事業の中核であり、平成12年度にスタートしたジャズスクールには、これまで延べ1,000人以上が参加。寺久保エリナや石若駿など現在のジャズシーンで活躍する多くの人材を輩出するとともに、北海道内各地域にもジュニアジャズスクールを挙げ、地域活性化に成果をあげている。さらに、平成17年度から開催するグループキャンプでは、アメリカ・ボストンのバークリー音楽大より、タイガー大越ら現役教授陣を招聘し、全国から受講生を募集し、レベルの高いジャズ音楽教育事業を展開している。これら事業出身者がミュージシャンとして、サッポロ・シティ・ジャズをはじめとして国内のさまざまなジャズライブに数多く出演。ジャズを通じた豊かな感性の育成を基礎として、そこからプロミュージシャン（実演家）の輩出など人材の循環を確立している。まさに、芸術の森施設が地域の文化拠点として機能し、地域のアートシーンの創出や振興において重要な役割を果たしている。

海外との交流においては、芸術の森が道内各地との結節点としての役割を果たし、ジャズを通じた国際交流の輪を広げている。平成30年はノルウェー・オスロ市のジュニアジャズを招聘し、ジュニアジャズで提携する北海道・砂川市に、ノルウェーの子どもたちが合わせて訪問し、地域の国際交流に貢献した。

また、昭和63年より開催しているバレエセミナーは、バレエコンクールの世界的権威、スイスのローザンヌ国際バレエコンクールの認定事業としてスタートし、世界的指導者による体制のもと開催。これまで延べ5,000人以上が参加し、熊川哲也をはじめ、木田真理子など世界的ダンサーを数多く輩出。平成28年度に指導体制を一新し、現在はパリ・オペラ座の元エトワール（最高位）であり、スペイン国立ダンスカンパニー芸術監督のジョゼ・マルティネスを主任講師とする体制で推進。例年、参加する200名近くの受講生のうち、約半数が北海道外の受講生であり、バレエダンサーを志す若い世代にとって芸術の森はバレエ教育の聖地となっている。当セミナーは、当市のみならずわが国のバレエ振興に大きく寄与している。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

人材育成事業において、「ジャズスクール」「グループキャンプ」「バレエセミナー」は、いずれも10年以上取り組んでおり、長く継続することで文化芸術の担い手の育成に成果をあげている。事業運営とともにスタッフの人材育成を行うことが、持続的かつ発展的な組織活動に繋がるものであり、これら人材育成事業を継続することにより段階的にスタッフのスキルアップを図っている。

ジャズスクールでは、毎週末の定期練習や演奏活動を含め年間100日近くの活動を行う。スタッフはスクール生や講師、保護者との連絡調整、演奏会場との調整、演奏会運営など多岐にわたる制作事務を習得する必要があるため、当該事業をOJTと位置づけ、この事業を通して事業制作のノウハウや段取り能力を身につけさせている。一定の経験を有したスタッフは、資金調達のための地元企業への営業活動と対応業務やスクール活動を他地域に拡げるための各地の団体とのネットワークによる制作業務など、より高度な業務を担当させている。

なお、事業の継続性を図るため外部資金の調達において、協賛企業との提携では、協賛社名を冠した植樹活動や福祉施設での演奏会など、地域貢献や社会奉仕など企業のCSR活動に絡めて活動を展開し、支援者との関わり合いを深めている。

また、より専門的な知識が必要となるバレエセミナーやグループキャンプでは、高いレベルでの運営ノウハウや専門性が求められることから、コーディネーターを外部委託することで運営面の安定化を図っている。

これらにより、組織的な事業体制を構築し、事業運営の維持・発展に努めている。

さらに、当施設で蓄積されたノウハウを伝えていくため、当財団が主導し設置した各地のジャズスクールには、合同合宿などを通じて指導方法や運営手法について伝えているとともに、継続的に連携する大学との間では、インターン生の受け入れ等アートマネジメントの担い手の育成や支援に取り組んでいる。